

令和3年度 学校評価報告書1 (計画段階 ・ 実施段階)

いずれかを○で囲む

| | | | | | | | | | |
|---------------|------|--------------|--|---|--|--|--|--------|---------|
| 学校名 | | 福岡市立博多工業高等学校 | | 学校経営方針・学校教育方針 | | 今年度の重点目標 | | 評価(総合) | |
| 学校長 | ふりがな | とう きくえ | | 「第2次福岡市教育振興基本計画」に則り、市立高等学校の活性化へ向けた具体的方策を組織的に取り組み、「都市型工業高校」を目指す。 ○「Challenge博工」の学校スローガンを掲げ、進路実現(進路保障)をメインテーマとし、ものづくり・資格取得・部活動の活性化において、生徒を磨き、教職員とともに「日本一の工業高校」になる。 ○創立90周年を見据え「NEXT STAGE博工」～未来の自分をつくる、未来の博工を創る～の具体的方策を策定し推進する。 (1) 校訓「質実剛健」の精神を継承し、質朴、誠実、心やからだ健やかで、強くたくましい生徒を育成する。 (2) 「安全第一」を重視し、工業教育やものづくりを通して、専門的知識や確かな技術を習得させ、工業発展や産業社会に寄与・貢献できる有為な生徒を育成する。 (3) 人権教育を推進し、個人の価値や尊厳を大切に、互いの人格を尊重する意識・意欲・態度を養い、実践行動ができる生徒を育成する。 (4) 礼儀や秩序、規律を重んじ、勉学や部活動に動しむ学校文化を創造し、誇りや自信を持った生徒を育成する。 | | (1) 新しい生活様式の定着を目指し、生徒会を中心とした環境美化運動を継続し、規律を守り、自発的な判断・行動能力を高めさせ、諸行事の円滑化を図り、誇りを持たせる。(総務部) (2) 授業規律の確立を推進し、令和4年度より学年進行する新カリキュラムに即した準備を整え、授業改善を行う。特にPDCAサイクルを意識した、授業と評価の一体化の実施に向けた準備と試行を行う。(教務部) (3) 企業が求めるコンプライアンス(法令順守)の観点から、自己指導能力(適切に判断し、行動できる力)を身に付けさせる。(生徒指導部) (4) キャリア教育活動を通して、自ら進路を主体的に選択決定できる能力や態度を育成し、進路実現に向けて支援・指導を推進する。(進路指導部) (5) 生徒主体での学校行事を推進するとともに、部活動を通じて「人間力」「創造力」の向上を図り、活気のある学校づくりに取り組む。(特別活動部) (6) 各学科が特色を持ち、工業技術「各種競技会・資格取得・ものづくり」の向上のために企業や大学等との積極的な連携や知的財産教育等に取り組む、ICT機器を活用した新しい学習スタイルを確立するとともに基礎から高度な技術まで身につけさせる。また、効果的な広報の充実を行う。(工業教育推進部) (7) 生徒・保護者に寄り添うとともに、生徒の自己肯定感及び高校生としての人権感覚を育み、心地よい学校生活を送れるように努める。(人権教育推進担当) | | 学校自己評価 | 学校関係者評価 |
| | 氏名 | 藤 菊英 | | | | | | B | B |
| 校長本校在籍年数 | | 1 年 | | | | | | | |
| 学校関係者評価委員会委員長 | ふりがな | ふくしま さだあき | | | | | | | |
| | 氏名 | 福島 貞昭 | | | | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 昨年度の成果と課題 | ◎成果:①新教育課程表の完成②生徒会役員や生活委員会の交通安全指導による規範意識の向上③自動車工学科のギネス記録達成、知的財産教育における上位入賞、機械科ものづくり専門部の全国優勝④通級指導員、SC、SSWの配置による支援体制の確立 ◎課題:①全職員による継続した粘り強い指導②早期離職の防止策の検討③進学コースに対応した新しい推薦内規の適用④生徒会や部活動における主体性を育てるための活動 |
|-----------|--|

| 評価項目 | 目標及び具体的な方策等 | | 学校自己評価 | 取組状況・成果・課題 | 学校関係者評価 | 学校関係者評価委員会からの意見等 | 今後に向けての方針・改善点 |
|-----------|---|---|--------|--|---------|--|--|
| | 目標 | 具体的方策 | | | | | |
| 教育課程・学習指導 | 新カリキュラムに即した準備を整え、授業改善を行う。 | 観点別評価について、評価基準を検討・決定する。 | C | 職員研修を実施した。令和4年度からの実施に向け、評価基準を検討している。 授業改善への取り組みとして授業改善アンケートを1学期と2学期に実施した。生徒のアンケートをもとに教員のアンケートを実施し、改善について検討を行った。 | B | ・学校教育は、学習授業が命である。今年も授業改善の工夫の一環として、アンケートなどの活用が試みられていますが、「わかる授業」「わかる授業」を目指して大いに試行してください。 ・授業規律の問題は重要な課題です。全先生方で向上につとめましょう。 ・新しい学習評価が始まり、3観点での評価を行うことになるが、その中でも「主体的に学習に取り組む態度」については評価者がしっかりと考えていくことが求められており、管理職としてのチェックが求められます。 | 観点別評価導入にあたり、年間指導計画や評価方法については各教科でしっかりと検討をしてはいるが、導入後の反省をフィードバックすることが大切である。授業改善アンケートも活用しながら進めていく必要がある。 |
| | | 授業と評価の一体化について、PDCAサイクルを意識した検討を行う。 | B | | | | |
| | 授業規律の確立 | 教室環境の整備および整理・整頓の徹底 | B | | | | |
| | | チャイム席を守る。 | B | | | | |
| 生徒指導 | 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上 | 礼節を重んじた指導の徹底(より良い行動の積み重ね) | B | 職員と生徒会生活委員による登下校指導において交通ルールやマナー遵守を生徒に啓発・指導することで自転車マナーは良い方向に向上した。生徒・PTAの意見が反映し、校則の一部見直し、全体的に風紀規定を順守している生徒が多い。今後も全職員で継続して、粘り強く指導していく必要がある。 | B | ・生徒指導は、日頃からの根強い指導を行っていく必要があります。博多工業はほぼ全職員の先生が、規範意識の向上に取り組んでおり喜ばしい限りです。学校教育での難しさはありますが、これからもご尽力ください。 ・生徒の意見を多く取り入れた校則の見直しは今後も継続していくと良いと思います。 | 全生徒に自転車乗車マナーを徹底させるために職員による登下校指導とともに生徒会生活専門委員による活動をより拡大・発展させ啓発を強化していく。 あいさつ、ことば使い、身だしなみ等を徹底指導することにより規範意識の醸成を図っていく。 |
| | | 全職員、生徒会生活委員会による登下校指導(挨拶・身だしなみ・自転車マナー)と風紀検査での徹底指導 | B | | | | |
| 進路指導 | 確かな進路実現(就職指導) | 正しい生活習慣と基礎学力を定着させた生徒を育成することで、企業との信頼関係を確立させる。 | B | 各学年LHR等を通じて進路に関する取り組みができた。また、2年生のインターンシップを再開することができ、社会性・勤労観を身につけさせることができた。しかし、早期離職に関しては防止できていない状況である。 | B | ・生徒に対する進路保障は、学校としては大きな評価であり責任課題ですが、今年度も就職、進学希望者ともほぼ全員が進路実現できていたことは、大変立派です。 ・早期離職の原因は広く深いものがある。「生きる力」の育成が求められるので、学校のみならず、家庭教育や会社教育等も大切です。 ・早期離職は会社としても痛手ですので、企業とのミスマッチを無くす取組を協力していかれると思います。 ・進路の目標を早い時期から持つように強化してはいかげでしょうか。 | 進路に関する取り組み(行事等)の検討に入る。企業との連携を強化しながら早期離職の原因追及に努め、防止策を講じなければならぬと考える。 |
| | | キャリア教育の充実・企業との連携により、早期離職者の防止に努める。 | B | | | | |
| | 確かな進路実現(進学指導) | 大学入試改革への対応(指定校推薦入試への依存からの脱却や、専門コースからの国公立大学専門高校枠入試への挑戦など)について論議し、理解を進める。 進学コースの体制整備(選抜方法の改善や推薦内規の見直し、高大連携を含めた活動計画の策定など)を行う。 | B | | | | |
| 特別活動 | 生徒会・部活動の活性化 | 生徒会専門委員会における諸活動の活性化 | B | 学校行事の中止、縮小となったが、生徒会役員が中心となり、自発的に行動し、できる範囲内で行事をおこなうことができた。また部活動においてもかなり厳しい状況であったが、多くの部活動が学校活性化のために貢献してくれた。今後はもっと主体性を育てるための活動を取り入れ、活気のある学校づくりが必要であると考える。 | B | ・生徒の主体性や、学校の活力、特色を生み出すためには、生徒会活動や部活動は是非必要であります。 ・資料によれば、部活動の加入率が79%であり、生徒たちの学校教育への関心の高さを垣間見ることができ、活気ある学校と言えます。 ・個人の部などで素晴らしい成績を収めており感動。 | 今年度の反省を次年度に活かし、今年度できなかった様々な学校行事を生徒主体で成功させる。 コロナ禍にあった部活動生の意欲を低下させないような活動を取り入れていきたいと思う。 |
| | | 部活動生の意識向上と諸活動の活性化 | B | | | | |
| 工業特色 | 「ものづくり」技能・技術の向上、工業各科の授業・実習内容の向上・見直し | 各科の工業に関する専門性を向上させるため、外部との連携を積極的に図る。課題研究、知的財産教育の推進・充実を図る。 | A | 課題研究の取り組みは、各学科とも積極的に取り組み、今年度も校内生徒研究発表会はリモートで行うことができた。昨年度から、出場を始めたジャパンマイコンカーリーにおいて、2年目で全国大会出場を果たした。 | B | ・毎年、工業高校の特徴を象徴するように、各学科における生徒たちは、市や県、全国規模の研究発表会やコンテストに挑戦し優秀な成績を取っています。誠に誇らしい限りです。 ・工業教育の専門性を高める資格も各学科で取得する生徒が、増加する傾向にあり立派です。 ・「ものづくり」は、中学生にとっても興味深いものがあり、ぜひ、たくさんの生徒がその素晴らしい学びに触れる機会が作れると、中学生の「ものづくり」に対する視野も広がると思います。 | 座学だけではなく、実習のオンライン授業の研究を進め、ISTの充実を図りたい。また、実習で学んだ技能を向上させるために、技能試験受験を全学科に波及させたい。 |
| | | ものづくり技術を向上させ、ものづくり競技会などでの成果を高める。地域や中学校に対する広報活動を充実させ、本校の取り組みを積極的にアピールする。 | B | | | | |
| | 資格取得プログラムを再検討し、専門性の高い資格や、難易度の高い資格習得を目指す | B | | | | | |
| | 資格取得指導を充実させるための、教員の資質向上を図る | C | | | | | |
| 修学支援 | 生徒の自己実現に寄り添い、支援する | 生徒・保護者の要望を聞きつつ、特に支援が必要な生徒に対してきめ細やかな支援を行う。 | A | SCはもとより、通級指導員やSSWも配置され、支援体制づくりに助言を仰ぐことで今までにない体制・対応ができた。各種奨学金・給付金制度においては早めの対応によりスムーズに対応できた。 | A | ・教育相談や研修会を通じて「学習支援、いじめ防止、不登校、人権啓発、携帯電話」等多様化した課題について職員全体で取り組むことが大切だと思います。 | 「気になる生徒」においては定期的な情報交換をするともに状況によってケース会議を開き、生徒および家庭の思いに寄り添える組織づくりを目指す。あわせて生徒一人ひとりが安心して修学できる |
| | | 各種奨学金・給付金制度への相談体制を充実させ、周知と理解を広げる | A | | | | |
| | 差別の現実から学びを深める | 校内外で実施される研修会や学習会への積極的な参加を促進する。 生徒会活動との連携を深め、屋形原特別支援学校との交流学習を拡充する。 | B A | | | | |

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度、B…目標を上回る達成度、C…目標どおりの達成度、D…目標を下回る達成度、E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。
※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。